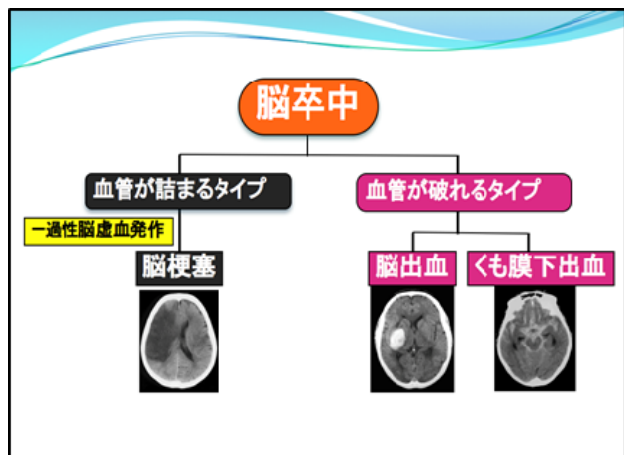


『 脳梗塞も助かる時代 』 - 後悔しないために知っておくべきこと -

脳神経血管内治療科 部長 鶴田 和太郎

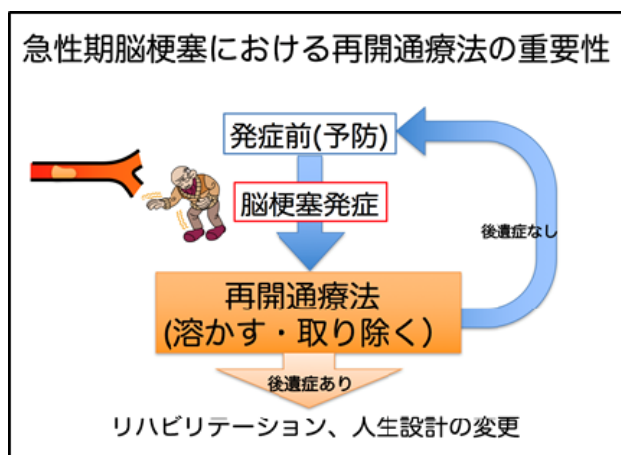
1. 脳梗塞とは？

脳卒中は本邦での死因第4位、寝たきり第1位です。患者さんの数は、高齢化社会の波を受けて年々増加傾向にあります。脳卒中は血管が詰まる脳梗塞と、血管が切れて出血するくも膜下出血と脳出血の3つに大別されます(図1)。脳梗塞とは、脳を栄養している動脈が詰まってしまい、脳に血液が流れなくなって細胞が死んでしまう状態です。脳梗塞になる部位や大きさにより症状は様々ですが、言葉が出てこない、呂律が回らない、片側の顔面や手足が麻痺する等が典型的です。脳梗塞の主な原因は高血圧、糖尿病、高脂血症により進行する動脈硬化と心房細動という不整脈です。



(図1)

2. 急性期血栓回収療法の有用性 (図2)



(図2)

昔は脳梗塞になったら、もうどうにもならないと思われていました。その状況を変える第一歩となったのが2005年に登場したt-PA静注療法で

脳神経血管内治療科 部長

鶴田 和太郎 平成10年卒



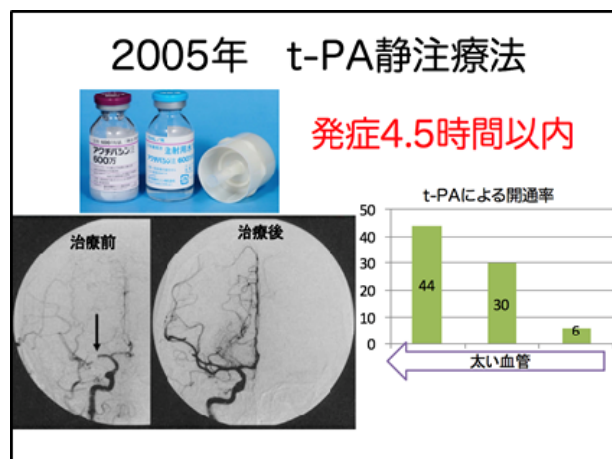
<専門分野>

脳血管障害、脳血管内治療

<資格・所属学会等>

- 日本心血管脳卒中学会 評議員
- 脳神経血管内治療誌JNET 査読委員
- 日本脳神経外科学会
- 日本脳神経血管内治療学会
- 日本脳卒中学会
- 日本脳卒中の外科学会
- 神経放射線学会
- 脳神経外科 専門医
- 脳神経血管内治療 指導医
- 脳卒中 専門医

す。症状が出てから4時間半以内に間に合えば、薬剤を投与でき、血管に詰まった血栓が溶けて劇的に良くなる患者さんが出てきました(図3)。

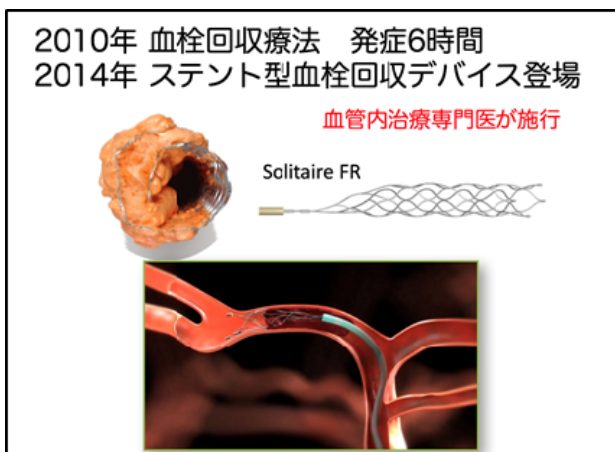


(図3)

それでも太い血管では再開通が難しく、その効果は限定的でした。2010年には血栓部にデバイスを誘導して血栓を回収してくる手法が登場しました。血栓回収デバイスはその後改良され、現在ではステント型のデバイスが主流となっています(図4)。

約8割で再開通が得られるまでに成績が向上し、2015年にはヨーロッパの大規模臨床試験の結果、脳の太い動脈が血栓で詰まった場合、血栓回収を行うことで患者さんの予後を改善できることが証

明されました。こうして脳梗塞の急性期治療は大きな転換期を迎えました。血栓回収療法が標準的な治療として認められたと同時に、必要な患者さんに対しては血栓回収療法を行うことが急性期病院の責務となったと言えます。しかしながら、血栓回収療法を行える脳血管内治療専門医は、国内で数が足りないのが現状です。脳血管内治療専門医を育成して各病院に配置すること、またそれが達成されるまでの期間は、急性期脳梗塞の患者さんを血栓回収療法ができる施設に搬送するシステムの構築が急務となっています。患者さん、ご家族としても、この血栓回収療法という有用な治療法があり、治療が可能な状態であれば、受ける権利があることを知っておくことが重要です。



(図4)

3. Time is brain “時は脳なり”

脳梗塞になっても、詰まった血管の再開通が得られれば、元どおり元気になれる可能性があることを述べましたが、それには重要なファクターがあります。それは症状が出たら極力短時間で再開通させなければならないということです。脳細胞は虚血状態に弱く、短時間で死滅してしまいます。死滅してしまったところに再開通して血流が戻っても、細胞は生き返りませんし、返って出血など悪いことが起きることになります。血栓回収療法が行えるゴールデンタイムは一般的には発症から6時間以内とされ、早ければ早いほど効果があることが知られています。脳梗塞かなと思ったら、とにかく1分1秒でも早く病院に行くことが何より重要です。

4. さいごに

当講座では、以上の内容について、わかりやすく解説したいと考えています。脳梗塞にならないように予防を行うことが最重要であることは言うまでもありませんが、万が一の時のために、脳梗塞の対処をよく知って備えることも重要です。皆さまのご参加をお待ちしております。

～詳しくは公開講座へ～ 虎の門病院 本院公開講座

日時：10月28日（土）14時～15時30分
場所：虎の門病院本院 本館3階講堂

虎の門病院では定期的に一般の方向けの公開講座を開催しています。

どなたでも（虎の門病院を受診していない方でも）ご参加いただけます。

講師は虎の門病院所属の医師が担当し、講演後には質問もお受けいたします。



申込み不要・入場無料、
皆さまのご参加をお待ちしております。

虎の門病院 公開講座

検索



公開講座はDVD化しています。



DVDは本館8階にある患者図書室で入院患者さんを対象に1泊2日でレンタルしています。外来患者さんは、図書室内でご覧になることができます。（イヤホンをご持参ください）。



講座当日にお越しになれない方、過去のあの回をもう1度見たいという方、ぜひDVDをご活用ください！